

価値と無償非交換経済

奥山孝門

価値という言葉があるが、この言葉はクセモノだ。人間にとっては「生存 Vivalo Existere」(生きて実存する)が唯一の価値だと私は考える。生産物、労働(マルクスによれば商品)は生存を維持する道具や手段にしかすぎない。だいたい人間は食、衣、住の必然があったから地上に発生したエネルギー体なのだ。また労働は生存に必然な運動(これは仮定的原理)を生存維持に方向づけた、いわば運動の一つの形体である。だから労働は「必然」である。また生産原材料も「必然」であり、それ等を価値と観念してはならない。

大門一樹さんは「売買という自由と合意」と言っているが、売買は本質的に自由ではない、交換は本質的には自由かも知れないが、今日社会での交換は自由ではない。売買するときは、不自由だからこそ売買するか、むしろさせられるのである。

人間社会の始まりは、無償、非交換の生活行為(経済)だった。僕はバナナを百本とってくる。十本を自家用にとって、あとの九十本はそこに置いておく。他の人が必要に応じて持ってゆく。君が魚を百匹とってきてても同じ

ことだった。つまり無償非交換の生活(経済)だった。「この米と魚がほしければ、材木を切ってきて家を建てる!!」これが「交換(強制)合意」の生活(経済)行為なのである。こうした生活行為には、もう真の自由も平和もなりたない。

私は無償非交換の社会について考えたいと思っている。また、それがアナキズムの経済ではないのだろうか。互贈(経済)制度の社会と呼んではどうだろうか?

附記

筆者奥山孝門氏は医師として、多忙な中で先に「生存主義宣言」を著わされた。この小文はその骨子である。生存という言葉を実存から区別して「人間の生きながらえる」ことを根本として、生存主義を唱道されているので、根本においてアナキズムに通じるものであることは言をまたない。折を得てリベルテールでも紹介したい。

奥山氏の父君も医師として、その深い人道的な立場から、大杉や近藤はじめ多くのアナキストたちが御厄介になっていることは、古いアナキストたちが、深い感銘をもって語っていることである。(三浦)

思い出す人びと (2)

安 谷 寛 一

和田久太郎君のこと

小型の大杉の名刺を持って中村還一と一緒にやって来て大阪道頓堀のカフェで会ったのが和田久太郎とは初対面だった。その時の大杉の名刺に記された紹介がふっている、曰く『和田、中村兩人を派遣する御助力乞う』間もなく有吉三吉のスパイ事件というのが起って、中村は現われなくなったが、武田伝次郎の家に最初の月刊「労働運動」の大阪支局をおき和田はその長のようなものだったから、和田と私との関係は長くつづいた。和田は東京大阪往復の汽車賃などネダリに来たり、私が神戸堂という本屋から「労働運動叢書」とかいいう（労働一号か二号に広告）のを出させることにしていたので、東京からその原稿を持って来て、稿料か印税か持って行くのも和田だった。「慢交慢画」の中に、『労働資金を安谷が出していた、だから安谷が失脚すると「労働」も出なくなつた、など大杉が書いてある。和田に渡した金が高の目には「労働」の資金として映っていた。

だが、組合万能主義の和田と組合クソミソ主義の私と

は論義がつづきはしたが和親ではなく不和の状態だった。大正十年のこと京都の同志様の連中で今存命の者あれば知っている筈！

米田庄太郎の「サンジカリズム O・G・T の研究」をふとところでクタクタになるほど持ち歩き読みつづけている和田に『君は O・G・T 一度立てばフランスの天下一朝にして明れる位思っているやうが、O・G・T なんて労働組合はクソのつっぱりにもなるもんか、フランスはもう O・G・T 解散やつつけるが、勿論ユウレイだから一コロだよ』とやつつけると、和田はくやしがつて本当に泣き出した。和田の組合主義はそんなに強烈だった、そんなこんなで、和田と私とは遠のいたが、私の親父と和田は人間的に親しかったらしく、和田が福田大将やりそこないで入獄してから、父が「これ久太に差入れやれ」と十円か二十円よこしたことがあるが、結局、私はそれをネコババしてしまった。

ばかばかしいほどの天皇主義者だった父、そのために私家を出たほどの父、それが和田のどこがよくて親しんだか？ 和田にどんな話術の妙があったのか？ どうでもいいが、やつぱりあの金送ってやるとよかった、など私は時々やまれることもある。変だね？

大正十一年夏か、追放されたコルゲフの見送りに来た

大杉が妙な顔して『君は O・G・T が解散されること、そのホンノ二、三日前に知っていたってネ？ そりゃどういうことだい？ 和田久でなくても僕だって不思議だ、何かタネがあるのかい？ 私の所にフランスの雑誌や新聞がよく来ているのも知っていた大杉はその辺にタネがあるって思ったらしい。あまりウルサイから私は云ってや

った！
『ナニニありや出たらめが当つただけのことさ、久太運が悪かつた、だが O・G・T も I・W・W もモロかつたネ！』

村木源次郎君について

純粹のアナキストであり、マコの唯一の小父さんだった村木君は、鎌倉小町雪の下の一夏から十三年一月二四日の彼の死の時まで私にはよりよき兄貴であった。

彼は行く先々何処でも良い小父さんだったらしく、鎌倉のその夏も、毎日材木座とかいう海岸の何に屋かの手伝いに行くとか云って、朝いそいそと出かけ、夕方には私に土産とか云い毎日一、二本のビールを吊らさげて帰った。それがその日の彼の日当だったかも知れない。そんな中で、渡辺の婆さんの家に連れて行ってくれたこともあり、服部浜次さんの家の座談会（堺、山川らの講演

もあった）にも連れられた。ロシア革命につづいた尼港事件の話などのあった頃。

そんなこんなの中で、私の身辺急と云い出した。初めから急で、大杉の家に逃げ込むのがおかしい位だったが兵庫県の捜査が東京に伸びて来たらしい、と、村木にも感じられ大阪から久さんが知らせに来たり、で、私はその大正九年七月十四日（フランス国祭日）鎌倉を出て二、三日泊り歩いてから大阪に向い、大阪で大串の店（本屋で久さんと打合せてから郷里の城崎に行った。私をとても危なかつかしく思ったらしく野枝さんのお目付役で、村木君はとうとうこの城崎までついて来てくれた。

ここでの二、三日は私にとってとてもなつかしい思い出の日だが、村木が死んだのをこの目で見て五十年、この目の曇る日も遠くない今日となつては思い出もへちまも甚だ影がうすい。

村木の最期のことは別稿。

差別とアナキズム

宮崎 晃 著

¥1600

黒色戦線社
振替 宇都宮11015番

野 火

○江川充通さんを救援する会よりカンパ要請書が届いている。 東京都小金井市京町五の三〇の二

振替口座東京八の一九〇〇二〇時田昌瑞

○コミューンヒロバ 二四(七五・一二・一) 共同体における言語活動に関して問題提起がなされている。集団の言語の占有が運動のイニシヤチブから権力構造的なものの形成及び運動の膠着を引き起こす。筆者は、生活の中で身につく「ことば」と、学習によって得る抽象的思考用語、即ち「言語」とを区別し、言語活動が、常に「言語」は「ことば」化されるものとして、また「ことば」は「言語」として発展するものとして展開されるなら、それは継承しうるし、変革力をもちうるとしている。その他「直販始末記」など。 大阪市東成区玉津二丁目東成玉津郵便局留コミューン百人委員会

○準備会通信臨時号(七五・一一・一四) 九月の連帯会議や準備会運動をトータルに総括する中で更なる全国的連合を画策すべく奮起している。他団体との関係等を含めて総括にまだ一定程度の時間を要する。資金的に準備会としてのニュースは当分発行できない。(原文まとめ) 無政府主義者連盟関東地区(準)

○長征一九号(七五・一二・一) 「個性的な創造性をこそ喚起する」と題して第二回無政府主義者連帯会議に關しての感想が述べられている。その他「共有の創造は否定を求める」など。

川崎市多摩区登戸七九五長谷川武気付徒人社

○Lm Movad. 一二月号 あらゆる町に、あらゆる職場に、あらゆる学園にエスプレントの旗を、と呼びかけている。豊中市曾根東町一の一一の四六の二〇四小堀マンション豊中二階関西エスプレント連盟中ラ・モバート社

○生活者一二月号No.四三 日雇労働者の「生きる権利」獲得への闘い。 横浜市戸塚区田谷町一九三一加藤彰彦越冬行動に關して、男もの下着、防寒着の応援を求めている。 横浜市中区寿町寿福祉センターか、あるいは寿生活館の加藤宛

○高い壁第六九号(七五・一二・一) 公判報告、島田事件レポートなど。カンパを求めています。「土田邸、日石、ピース缶爆弾」フレイムアップ事件統一救援会 東京都杉並区高円寺北三の一の一二現代史研究会

○遊撃第五九号(七五・一二・一) 「天皇ノオト」「小西反軍裁判の会から」など 東京都小金井中町三の一二の二二直毘荘仁号長谷川修児

○獄中者組合が自殺房、保安房(眞静房)、懲罰房粉砕を訴えている。 東京都港区新橋二の八の一六救援連絡センター内獄中者組合

○救援通信No.一二(七五・一一・二七) アイヌシモリ独立戦士自殺房民事訴訟。 No.一三(七五・一二・八) 在日朝鮮人民の受ける苦悩を「差別」ではなく、植民地主義支配といわなくてはならない。「差別」という言葉をスローガンのに掲げる輩は日帝の植民地主義支配を隠ぺいし、その現実を歪曲、矮小化するものではない(原文より) 札幌市札幌中央郵便局私書箱二五五号札幌救援会

○七一黒ヘルゲリラ戦士公判通信No.六一、六二、六三。各公判報告と、検察側の鑑定書への批判。 東京都中野区東中野三の一六の二二広山莊三吉本気付水木護

○季刊連帯誌処女地帯六二(頭脳戦一六二) 秋田市 太平八田北本哲三

○(仮称)NHKを私たちのものにするため値上げに反対する連絡会議 小金井市東町四の一五の二九佐野方

(M・S)

☆アナキズム No.9 拝見しました。啓発される点が多々有ります。特にAある朝鮮人アナキストの伝記Vは文章がよ

く、テロに傾斜せざるを得なかった朝鮮人アナキストの苦闘がしのべれます。意見の相違と言われればそれまでですがA暴力主義の系譜とその批判Vの論説の中でバクニンについての二・三の考えを正したいと思います。本文34頁「バクニンの思想はその後二つの流れを形成することになった。一つは蜂起主義と称し得る内容で、主要にはイタリアで実践され、また行動による宣伝として定式化された思想潮流である。他の一つは破壊の一面的強調にもとづくテロリズムの流れである(中略)」。彼の破壊精神はテロリズムへと短絡されやすかつたし、彼自身もテロリストのネチャーエフとの短い交際の間にその影響を受け、テロこそ既成秩序を破壊するための最も有効な手段であると考えるに至った時期もある……」(傍点筆者)

疑義の第一点はバクは蜂起主義とテロをどこで結びつけたのか、論旨からするとイタリアでの蜂起主義の挫折からネチャーエフのテロリズムに合体したように見られますが私としてはこのような短絡した思考は受け入れられません。バクニンは巨人です。その思想の巾は彼が自ら求めたロシア、ヨーロッパの革命の過程を経て変化しているのです、ある時期の彼の発言を捉えて、例えばA破壊を求める情熱はまた創造する情熱なのだVを揚げつ

海外だより

ごぶさたしてます。

New York に着いて一ヶ月たちました。僕のアパートのすぐ後に「FREE SPACE ALTERNATE U」という建物があるんです。そこは、誰にでも（もちろん変革をめざす人々のためのものですが）開放されている空間である、とのこと。同封のパンフをみて下さるとおわかりのとおり、各種の研究会も行なわれていて、部屋が二つあって、他には反戦組織等の部屋があるようです。（二階建てです）UNIVERSITY 大学の一部かもしれません。キャンパスとは無関係に街の通りにあります。火曜日の研究会をしているBOBさんは、中国にとっても関心をもっているそうです。彼の言うところでは「米国の入ってくる書物は毛沢東によって検閲されていると思われ。日本では、もっと正確な情報が手に入るのではないか？ できたらそれらの本を得られる本屋の住所を教えてください。」そうです。どおでしょうか？ 彼は中国語ができます。木曜日に研究会をしているJACKさんからは「オウガスティン・ミウラを知っているか？」と聞かれました。三浦さんはMr. Jack にリベルテールを送っているのですね？ この老人は、ロシア革命当

らってもどうにもなりません。私の知る限り、バクの蜂起主義は彼の若い時代に研究したといわれるブンナロツティの八平等のための反逆Vに含まれた思想によるものだと思っています。これは知っての通り、グスタブ・バレーブラの事件に関する詳述ですが、その反逆とは一七九三年のフランス大革命の精神、憲法、共和国の原則を空洞化する反動に対する反逆でした。つまり今日で言う民衆の抵抗権の容認です。バクはその範囲で蜂起主義であったかも知れませんが、これは洋の東西、古今を問わず、法的秩序や権威主義に捕われない民衆の自明の原理です。バクはどの点からも論者が言うような八アナキズムの理論と個人によるテロの実践を公然と結びつけ、たことではないし、一歩下って、他のアナキストがそう理解したとしても、それは誤解か曲解の類であって、引用される文献の質がそれこそエマ・ゴールドマンの言ったように八心根のいやしい人はいやしい想像しかできないVという私達の貧しい想像力をくすぐることしかできないからでしょう。一九七六年はバクの死後百年たちます。もうそろそろ彼を正当に評価するようお互いに努力しましょう。

（文責 はしもと）

時のアナとボルについて語っています。この人は別な場所「LIBERTARIAN BOOK CLUB」という外国の郵便や問い合わせを整理する集まりをもっていて「FREE SPACE ALTERNATE U」は若い人が集まるのにくらべ、その会はお年寄りのアナキスト一〇人くらい（その内には日本のエスペラント誌に原稿を書いた事があるという老婦人もいます。）で構成されています。そこではすこし大きな集会を計画しているようです。JACKさんの友人は太平洋岸にあるANARCHISMの図書館でノムラという日本人に会ったと言っていました。

金曜日にはANARCHISMのTHEORYの研究会もひらかれています。というところ、いかにもすごそうですが、JACKさんにうかがったところ、アメリカでもANARCHISMよりボルにひかれる若者の方が多いとのこと。

こちらは建物のつくりの関係からか（靴のままでし、水道やガス設備、最少の部屋の大きさが日本より広い）このようなFREE SPACEがいくつかあるようです。FREE ASSOCIATION もそうです。ここでは「NU CLEAR WAR」という自由製作の映画の上映会がありました。これにはBOBさんも一枚かんでいて、当日は司会をしていました。ECOLOGY ACTION

のピラはBOBさんのくれたもので、他に「ROOTS」という雑誌もくれました。一一・二六にはチェースマンハットン銀行の前で集会がありました。これは市民団体の主催のようで一五〇名くらいが寒いところを集まりました。日本の集会とはちょっとちがっていて、途中でギターをもった女の子が自作の曲をマイクの前で唄ったり（これは集会の主旨をもちこんだプロテストソングのようでしたが何しろ英語かダメなものでよく歌詞はわからなかった）しました。

New Yorkには各種の市民団体があつてかわったところでは「GAY解放」を唱える団体が五つくらいあります。また人種も雑多なので、ブルトリコ人街には「自由ブルトリコ」の落書がしてあったり、独立を主張するグループもあるようです。中国人街には中共路線のピラもはってあります。

（甲斐一君は一九七五年度のリベルテールの編集に参加していたが、只今渡米中で、便よりを呉れました。音楽の勉強をしている様子です）

◎甲斐君の手紙に同封されていたS R A Fの宣言文は要旨次のようである。

「大多数の人びとは自分の生命をかける方向性やその

活用は管理できないのである。そこでわれわれは自己を方向づけ、自分で実施し、自己を管理するのであって、親方や指導者は必要としない。経済的自由を求めて闘うが、それはわれわれの作りだす余暇と富を十分に享受したいからだ。われわれから力を奪い、隷属のみを与える政府の代りに、当局や官僚がわれわれに押し付けた人間の高貴性に溢れた平等な人びとの間で協調の連合を提案する。富や資源を平等な仕方での分配とする課税と利得制度の代りに、われわれが提案するのは剰余についての集約的自主管理と欠乏に対する集約的な供給である。その集約的な決定はすべての人に開かれた大衆集会によって行われる。さようにしてすべての人が何をすべきか、どう活用してまた何を作り、それをどう活用するか、そして実際に必要としている人の手許に届けることができるのだ。別言すればお互いに関係をもつのであって、最早官僚がわれわれを引き離す事はないのだ。何んでも知ったかぶりの人指導者Vと技術者、専門家ははいらないのだ……(中略)

われわれの間での関係は心と肉体の能力に係りなく絶対的に平等である。連合に於て世界の変革の糸口を求める。しかし、どの結合も強制されるものではない。異端者としてのわれわれは異端の説を歓迎する。(自己規定した)地域団体はその地域に適用されるものとして一般の合意に基づくどのような決定にも優先権があるとする。同調しない少数者はその人びとの知的精神的物質的独立を維持するに足るだけの十分な生存手段までも否定され

るものではない。S R A Fにおいて、同調しない少数者は追放されたり、アナキストと認定されないとか、S R A Fの会員と認定されないことはあり得ないのだ。少数者による権利放棄はそれが自発的であつた少数者内部では自決によらなければならない。

- ・われわれは民衆の中にアナキストの形態を、社会的目的に宛て関係づけするために連合するのである。
- ・われわれはその形態を更に発展させ、われわれが建設しようとする革命的な社会においてこの新形態に副つて活動するために連合するのである。
- ・われわれは自己の活力とわが会員の創出する社会に最大の効果を与えんがために力を集中しようとして連合するのである。
- ・われわれは子孫のためではなく自己の努力の果実を享受しようとして連合するのである。それによって、われわれの子孫も自分達の仕方での社会を建設するのだから……。

世界の悪党達、利得者、指導者、將軍、法皇、大統領、当局者、その職員と官僚はもう十分悪を働いてきた。終りにしなければならぬ。そして明確なのはアナキスト社会は過去にあるのではなく、未来にあるのだ。きみもそしてきみの未来も、われわれとわれわれの未来に結合しようじゃないか。

S R A F (The Social-Revolutionary
Anarchist Federation; 社会
革命アナキスト連合)

※ S R A Fは米全国各地の個人またはグループが参加している団体で機関誌やニュースレターを出している。

エスペラント語による国際的な網状組織を

アナキズム運動の国際的交流のための努力が日本でもいくつかなされているが、言語問題の未解決のために、これらはその限界に直面しているように思われる。

第一に、交流の手段として英語などの民族語を採用しているため、交流の担い手が専門化(知識人化)してしまうこと。第二に、交流の相手がその言語を話す者に限定されること。第三に、交流によって英語(あるいはフランス語など)文化を豊かにすることはできても、私たちがそれに属することに誇りをもつことができる、より普遍的な世界文化を創り出すことができないこと。など。このような困難さに直面しながらも、なぜ最もラジカル(根底的)であるはずの者が、英語などにしがみついているのだろうか。おそらく知識人としての立場を手放したくないにちがいない。

さて、国際交流に関して模範的な解決策を示しているのが、前号でも紹介したエスペラント語の国際誌『自由人の絆』である。これは、労働者による国際的エスペラント組織 S A T (サート、全世界無民族性協会) 内のリパタリアン・フラクションの会報であるが、世界語による国際アナキズム情報紙としてより普遍的な形態をも

たせようと努力がなされている。

最近号(21号、75年10月)にも、情報を集めるための「国際的網状組織」をつくる呼びかけがなされている。

具体的には、各国のアナキスト・エスペランティストがより積極的な情報提供者となることである。また、現在スウェーデンでなされている編集をカナダまたは日本のグループが引き受けるようにとの提案もある。エンリコ・ビル内のエスペラント・グループ(毎水曜7時より例会は、76年より編集を引きつぐことを検討中だが、これが実現できれば、欧米以外の国も運動の中心になり得るというエスペラント語の長所を最大限に生かすことによつて、国際アナキズム運動に大きな影響を与えるにちがいない。多くの人に協力を求めたい。

『自由人の絆』21号(A4版10頁)の内容は、75年ハイグ市で開かれた S A T 大会での会合の報告、ボルトガルから政治情況の報告、ウルグアイから「南部コミュニティ」の弾圧に関する報告、世界各地のアナキズム誌の紹介、同志からの手紙など、である。

言語帝国主義反対!

ひとつの世界人民にひとつの言語を、
無民族語エスペラントを学ぼう!

(江藤敏和)

ありうべき共同体をめざして

昨年の秋、東武沿線の一角に、小さな共同体「松原の一軒家」が生まれた。僕はその中の何人かとは、以前から知り合いだったので、たびたび「一軒家」へ出かけては、話に花を咲かせている。金がなくなつて、二、三日居候をさせてもらったこともある。この「一軒家」がこのたび、ミニコミ紙「松原の一軒家」創刊号を出した。以下はその序である。(M・S)

私達は昨年の六月二十七日から、ありうべき共同性を明らかにしつつ、創立してゆくべく、共同労働、共同生活をしてきました。七月下旬から、私達のみで自己完結してしまいがちな、共同労働、共同生活が問題となり、そこで、私達は、私達の共同労働、共同生活を、今の所さして重要な結集軸とは考えず、むしろ、現代社会の諸関係を問いつつ、真にありうべき関係を創出してゆく主体の集団として、動いてゆくことになりました。私達は、現に、私達と「ともに生きている」あらゆる人達と「ともにある」なから「ともに生きている」内容を問いつめ「真にともに生きている」内容を不断に創り続けてゆく作業を、やってゆきたいと思っています。

十月一日、私達は、社会との一つの接点を持ち、関係

のうずをまきおこし、その中で、問いあい、新たな共同性を創出してゆく場の保証として、一軒家を借りることができました。私達は、狭いながらもこの一軒家を、

「松原の一軒家」と名づけ、情報交換センターとして、全国各地の諸個人、諸運動体のパンフを果収し、広く閲覧できるようにし、宿泊も可能な限りできるようにし(事則に連絡してもらえれば手配します)地域運動の根拠地とし、地域のたまり場として、学習会や各種の場として、自己変革の場、働きかけ合う場、社会変革の根拠地として機能させてゆきたいと思っています。

私達は、育ってきた環境も、身につけてきたものも、一人一人ちがっています。私達は未熟で、無知で、混沌としているのが現状です。私達は、関係の中にこそ、この私達の闇を照らし、開示する力が、はらまれていると考えます。私達は関係の中で自己を形成し合い、世界を創ってゆきたいと思っています。

「松原の一軒家」は、文化、社会、経済、政治―全領域にわたる全体革命の根拠地として、およばずながら、一歩一歩、なんとかがんばってゆきたいと思っています。

埼玉県草加市草加5の4の11松原の一軒家TEL0489・41・6468

編集後記

☆一月十日の編集会議。郵送料の値上を前にして心せられる会議だ。この号はどうでも旧料金で出す。政府が通貨を増発して、物価を上げるから郵便料があがるのは当然だが。上げられて困るのは一般人だ。上げて皆が文句を言わないように増発した通貨をわれわれにくれるのなら当り前だが、通貨の増発分はいつでも不公正にどこかへタンマリ流れることになっている。被害者は常に民衆だ。

昨日周恩来が死んだ。後継者は前に肅正された劉一派のトー小平だ。前にも言ったことがあるようにこの派の者を復活して官僚主義を固めるといふ方向は間違いない。近く望月桂特集をする予定だ。(三浦)

☆年が変つたら、新しい表紙、新しい企画、新しい編集方針で『リベルテル』紙を出発させたいと思っていましたが、郵便料値上げ前に出さなければならぬこともあって、一回のやつつけ仕事で編集を終らせてしまいました。申し訳ない気持です。

編集方針などをじっくり話し合つて、次号以降の編集に取り組むつもりですので、読者の皆さんも、リベルテ

ールに対する意見や投稿をぜひお寄せ下さい。

(江藤敏和)

☆初めて編集に参加しました。見聞きするものが目新しいものはかりで戸惑いがちです。こういう時は多分に客観主義的になりそうで、イカンイカンと自分に言い聞かせております。微力ですが今後ともやっていきますのでよろしく。(M・S)

☆汚れちまったぼくの触覚は、遠くまで対象を追っていた。意味もわからずに、呼び続けている朝日街、露出オーバの屋下り、風景は時を運ぶ。日常に返ってこない意識を追って、出口のない迷路を突き抜け、不純な荒野を見た。冷えてしまった意志とたいくつな愛を再生させ、傷ついた触覚をかかえて、やっとふりだしにもどってきた。斗いはこれからだ!

―シゲキ

☆本年は多士齊々の参加を受け滑べり出しは好調のようです。たまたま古本屋で岡本潤の自伝「詩人の運命」をみつけ読んでいます。当時大変だったんですね。ひとつだけ判るのはアナーキストの観念性がマイナスに作用すると糸の切れたタコのようになることです。もっとも右へ傾斜しても情念のタコでしょうか。たぐる糸をもつ人は各自なんだから自戒しましょう。(莫空人)